



噴火災害に備え36機関合同訓練



中岳第一火口の噴火を想定した阿蘇火山防災訓練が12月5日に行われました。近年、外国人観光客による火口見学が大幅に増え、危険時や災害時の対応も多様化が求められています。

今回の訓練では、現地指揮本部を旧スキー場に設け、陸上自衛隊、熊本県警、消防署、山上関係者など阿蘇火山防災会議協議会を中心に36機関約400人が連携し、特殊車両やヘリコプター、衛星電話などの最新通信機器等を使用し、本番さながらの救出活動を行いました。



冬の内牧温泉もいい!宿と飲食店がタイアップ企画



内牧温泉女将の会(永田とも子会長)の皆さんが、各宿のゆかたに揃いのハッピー姿でちょうちんを下げ、11月末、夜の飲食街へ繰り出しました。

これは、冬季限定(～4月10日まで)で泊り客に提供する特別プラン「ぶらり内牧」の開始を前に、タイアップする飲食店(協力店)を回ったもので、プランは、各旅館から下げてきたちょうちんを持って飲食店に入るとサービスが受けられるというもの。女将さんたちは、各店に、「お互い最高のおもてなしでお客さまに喜んでもらいましょう」と呼びかけ、夜の内牧温泉街にゆかた姿のお客さんがたくさん見られるようになることを願いました。

なお、期間中、女性客にはさらに足袋や温泉化粧水など入ったお楽しみ袋がプレゼントされます。

ボランティア活動で美しい阿蘇の景観を願う

阿蘇市及び産山村の建設業協会の若手経営者で構成される阿蘇中部建設振興会の18社36人が11月29日、東黒川の山林で不法投棄された家庭ゴミや家電製品などの撤去作業を行いました。

これは、阿蘇の美しい自然環境を守ろうと昨年からの実施されているボランティア活動で、今年で2回目です。

この日、会員たちはクレーンなどを使用し、がけ下から空缶や空瓶などの一般ゴミをはじめテレビや冷蔵庫、タイヤなど約2,300kgの廃棄物を撤去しました。



阿蘇神社に堂々たる大注連縄

おおしめなわ



一の宮町大注連縄伝承会(小代勝久会長ほか15人)による全長7メートル重さ120キロの大注連縄の楼門への掛け替え作業が12月9日行われました。今年で25年目となる奉納ですが、会の皆さんの注連縄づくりの技術は県内で最も優れ、数々の表彰も受けています。

毎年、外観の化粧用に使うもち米のわらの確保など8月頃から作業を始め、年末までに特大、大、中、小の注連縄約350本を編み上げます。大きいものは阿蘇神社ほか大宮神社など県内数ヶ所の神社に奉納しています。

地元の人たちの手により地元産の材料で作られた大注連縄はこれから1年間、日本3大楼門の一つである阿蘇神社の楼門を飾り、阿蘇地域の平穏を見守ります。